

取組の背景

当署管内においては、冬期間に地域と連携したエゾシカ捕獲事業（誘引、除雪）に取り組んでいますが、依然としてエゾシカ被害の状況が多く見られます。そのため、地元自治体や猟友会と連携したエゾシカ対策ができないかと考えていました。

猟友会や地元自治体等も参加したエゾシカ簡易影響調査勉強会が平成29年5月に当署管内において開催されたことを受け、地域にてエゾシカの有害駆除を行っている北見市・猟友会へ、エゾシカの捕獲に簡易影響調査のデータを活用して頂けないか働きかけてみることにしました。

取組の内容

今年度より春から秋にかけて、エゾシカの捕獲をしていなかったエリア（国有林を含む）にて、有害駆除を実施する北見市の有害駆除担当者にエゾシカ対策について相談したところ直接実行する猟友会と相談してみてもどうかとアドバイスを頂き、エゾシカ捕獲に詳しい猟友会のハンターと平成29年6月に意見交換会を行いました。

その中で、有害鳥獣駆除を行う際、被害の多い農地と隣接している国有林内で駆除を行いたいということ、その箇所は国有林の上流から下流までのデータがあるとエゾシカの動向がつかみやすいとの意見が出されました。

このため、駆除を予定している北見市留辺薬町瑞穂地区に絞って、自動撮影カメラの設置と簡易影響調査を実施し、痕跡別で図面に示したものを猟友会北見支部へ情報提供しました。

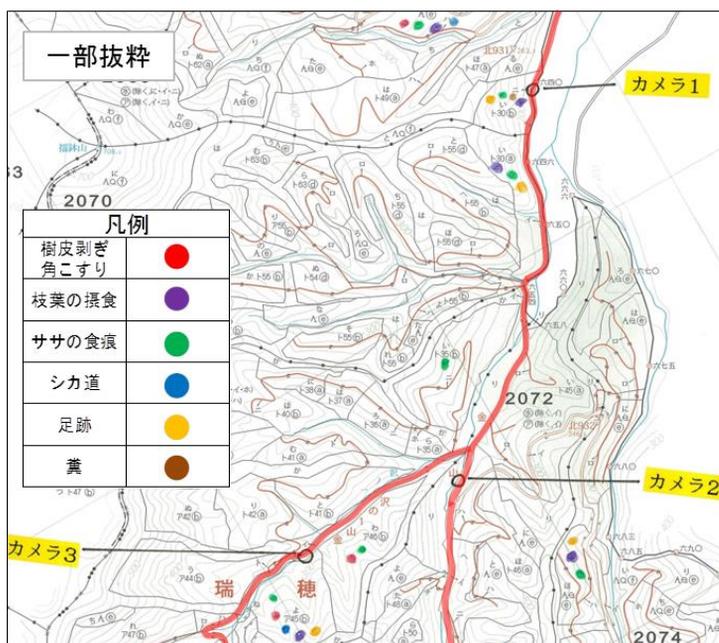
猟友会との打合せ
(H29. 6)

取組の成果

この一連の取組により、瑞穂地区では実施期間約1ヶ月で9頭のエゾシカ捕獲につながりました。

取り組みを行った結果、ハンターとの意見交換から単年ではなく複数年の調査期間の設定や、エゾシカが好む下層植生の状況、エゾシカ出没時の気温等の調査データがほしいといった要望ができました。

また、今回の意見交換や調査データ等の提供の取り組みにより、狩猟期間以外での猟友会北見支部との連携体制の足がかりが出来たのではないかと考えています。



今後の展開と課題

今回の取り組みで、猟友会からは、エゾシカ捕獲の参考になったとの意見を頂いていますが、調査期間が短く、データ量が少なかったため、データの信頼性を高めるため、継続して取り組むことが必要なので、次年度以降もエゾシカ捕獲に向け、北見市、猟友会北見支部との情報共有含めた連携強化に取り組んでいきたいと考えています。